

i 調査グループ(中島委員)

Computer index ワーキング・グループ会合議事録(参考資料 2-iii)を参照しながら、調査グループに集積されたデータの活用法が検討された旨の報告があつた。

Computer index の内容について質問があり(立花委員)、CINDA type と SCISRS type とあるうちから CINDA type を選んだ理由については、reader の負担を最少限にするために、機械的処置の容易な方を選んだとの説明があつた。CINDA type の資料の他に activity との関連が深い facility list も含むような広汎なデータを入れることも考えているとのことであつた(中島委員)。

ii 炉定数グループ(桂木委員)

41年度同グループの計算費の使途として大掴みに

converter	…50万円	} とすることになつた旨 報告があつた。
compilation	…70万円	
resonance	…40万円	

iii サーマル・グループ(高橋委員)

同グループ第35回会合議事録により報告があつた。

3. シグマ委員会の今後の活動体制について(百田主査)

委員リスト(配布資料3)を参照して、活動の現状と現在の組織が必ずしも対応しないため、再編成を検討してほしい旨主査より説明があり、核データ・グループ幹事会で作成した粗案をもとに討議が行なわれた。

核データ・グループ幹事会案として、運営委員会、炉定数グループはそのままでよいが、核データ・グループを計算と調査に2分するのは現状にそぐわないので、例えば「グループI、グループII」という区分をし

てはどうかという説明があつた(中島委員)。

サーマル・グループの調査活動について質疑があり, thermal neutron cross section の部分の担当について, 調査グループとサーマル・グループとの間の了解違いが指摘された。サーマル・グループは調査といつても炉設計の観点から graphite のように限られたものを対象にしがちであるという意見があり(高橋委員), 結局, energy range としては resonance の下部分から resonance, thermal の方までのものを核データ・グループの調査の対象とすることが再確認され, 物性が係わる方は thermalization とし, あとは炉定数という3本建てでゆくことを大綱にして, 細部の人員構成は運営委員会幹事会に一任された。

4. 41年度実行予算(主査)

下記のように報告がなされた。〈 〉内は41年度実行要求額。

計算依頼費	6,550(千円)	〈6,000〉
運 営 費	1,650	〈2,200〉
うち		
{ 会議費	150	〈130〉
{ 旅 費	900	〈1,000〉
{ 人件費	500	〈650〉
{ 印刷費	100	〈60〉
	(議事録るい)	

関連して, JND C ニュース, その他報告書類のシグマ委員会の印刷費がかさむので財源を確保してほしい旨要望があつたが(長山委員), シグマ委員会の活動の特異性を他委員会との関連で所内でもつと周知徹底するようにはかるべきであるが, 印刷費等については, 10月までに予算措置を講じれば, 見通しは暗くはないはずである旨説明された。

(野沢委員)

5. 炉定数グループの活動計画について(桂木委員)

「炉定数作成に関する作業計画(案)」(資料5.)によりこの計画がもちこまれるに至った経緯及び計画のあらましの説明があつた。

質疑応答のうちから主な意見を抜粋すると下記のとおりである。

- J P D R に渡すものは①素性のはつきりかかっているもの②次に余裕があれば、~~recommended data~~ ^{炉定数とし (出来るかどうか検証)} としての方針である。(桂木委員)
- 核種は多いし、期間は短いが、拙速は避けるべきである。この作業終了後も、これがシグマ委員会の活動の積み上げの基礎になるようなものにしたい。結果の良否よりも process に価値を認められる方向で仕事をするのがよい。(立花委員)
- 炉定数グループの作業の一環としての炉定数作成の一実際例としてこの計画をとり入れたという考えであれば“炉型 independent”の原則には触れない。(主査)
- でき上つたデータを T C A 等により実験に adjust するのは先方にして貰う。但し多少の ~~fitting~~ ~~service~~ はする。この種の data library がすべてそうであるように、でき上つたものを使用してのいかなる結果にも責を負うものでない点を明確にしておく必要がある。
(主査)
- この種作業を通じて炉定数と調査グループのつながりもうまくゆくとと思われるし、シグマ委員会にとつてのいろいろな意味の試金石になるから、やってみるのがよい。(桂木委員)
- 下準備としては、所内外とも予算、人員問題等一応のメドがあつている。事務処理は J P D R である。(桂木委員)

この結果、この計画は異存なくシグマ委員会炉定数グループの作業としてとりあげられることになつた。

6. 42年度予算概算要求の準備について(主査)

主査より、予算要求に関連して42年度の活動の基本方針について意見が求められ、以下の意見が出た。

- 。コード作成——計算依頼費はもつと縮少する方向にするべきで、conversion code 作成, evaluation に重点をおいた方がよい。(立花委員)
- 。42年度はまだかなり計算依頼費が必要である(中島, 五十嵐委員)
- 。シグマ・センターにもつと人員をつけ、+αを要求すべき時期である。(飯島委員)

7. 第9回 EANDC会議出席告(主査)

配布資料4.をもとに報告があつた。

8. ENEA 核データ収集センター(サクレー)訪問報告(主査)

ENEA 核データ収集センター(通称CCDN)は、フランス・サクレー原子力研究所に隣接した場所に設置されている。

Dr. Colvin (ハーウェルの人)をHeadに約10名程度の人員が働いている。

計算機としてはIBM360-30(64K8bit)が入つていた。Plotter はもうすぐ入る予定とのことである。現在はフランス電力庁(?)のを使用している。

Dr. Walli がCINDA 実際面の担当者で fissile materials の $\sigma_f, \sigma_{n,2n}$ などについてENDFとSCISRSとを同一の紙面にplotして検討しているところで、近日それを日本に送つてくれるとのことである。

CCDNとしてのNewsletterを出すとのことである。(註これは現在№1と№2が原研シグマ委員会に届いている)

参考までに、SCISRS Iは大変不満足なもので評判もよくない。改良型 SCISRS IIができたが、これも余りよくないので改善したい。改良するに当つては、CCDNの利用者の意見を参考にしたいとのことである。(Colvinの話)

9. Nuclear Data Technology Conference (ワシントン)報告
(西村、松延委員)

この会議の主旨は、核データの user と測定担当者との information の交換および discussion を目的とするものであつた。とくに technical な問題で、研究者の興味をひかれるものについて、会議のプログラムを参照しながら報告がなされた。

Proceedings は3カ月内に出る予定とのことである。

10. INDC (International Nuclear Data Committee,
IAEA) の委員の推せんについて(主査)

昨年秋東京に於いて開催された第4回 IAEA・INDSWGの会議における勧告にもとづいて、このたび当ワーキング・グループが常置委員会にされた。常設の委員会になると、各国の費用分担により代表が派遣されるようになる。IAEAからの要請にもとづいていずれ政府の方から正式に委員の派遣を求めてくるので、当委員会としての態度をきめたい旨主査より提議された。

主査からは、過去4回とも出席しているので、他の人に交替した方がよいのではないかという意見も出たが、今までの経緯をわかつていられる人がよいし、顔触れもほとんど変わらないようだから、我国としても変えないで引つゞき代表になつていたゞくのがよい(中島委員)という意見が多く、挙手採決で万場一致により百田主査が代表に推せんされた。

11. 「JNDCニュース」No.1について

主査より刊行されたNo.1についての意見、コメントが求められ、内容的には大体満足している。予算の裏づけをしつかりしてさえあれば続刊していきたいといった意見（大田委員）があり、積極的反対はなかつた。

No.2の中味として、主査より①Washington Conferenceの報告、②EANDC第9回の報告 ③入手したdocumentsの中で、多くの人の参考になりそうなもののdigestをのせることを考えている旨発言があつた。

12. IAEA・核データ会議（パリ）への提出論文について（中島委員）

原研リニアク研の論文（原研リニアック・タイム・オブ・フライト・スペクトロメーターによる中性子透過率データの処理と解析）およびシグマ委員会五十嵐，鹿取，中島委員による論文（光学ポテンシャルに含まれているパラメーターの系統性について）の抽象トクトを提出した旨報告があつた。

13. 次回会合：7月22日（金）於 原研本部（東京）

以上